

6 あいちの伝統的工芸品

祭りや食べ物のほかに昔から受けつがれているものに、「伝統的工芸品」というものがあるの。伝統的工芸品は、昔の人がふだんの生活に使っていたもの。長い間に人々から愛されて、きれいな工芸品になりました。そして、江戸時代に街道ができてから、土産物として全国に知れわたっていきました。



有松・鳴海絞

図案から仕上げまですべて手仕事。ゆかたをつくるのに50～60日かかります。名古屋城をつくるために来ていた人が身につけていたものをヒントに、絞りを生み出しました。



赤津焼

土をこねて形をつくり、火で焼いて固くしたものが「せともの」。うわぐすりをかけて焼くことで、「志野」や「織部」などのすてきな色のやきものができあがります。

あいちの伝統的工芸品のことなら、次のホームページにくわしくのっているから調べてみよう。

<http://www.pref.aichi.jp/chiikisangyo/densan/>

はるかさんが思ったこと(有松・鳴海絞について)

昔は、それぞれの家で「くくり」の仕事をしていて、北野さんも、小さいころからお母さんの仕事を手伝ってこられたそうです。このように、手仕事で一人前になるには何十年もかかります。なれた手つきのしょく人さんを見て、伝統を守りたいへんさとすばらしさを感じました。



くくりしょく人 北野七よひん



岡崎石工品

良い花こう岩が取れたことや矢作川を使って重い石工品を江戸へ運ぶことができたことでさかんにつくられました。灯ろうは、神社やお寺、公園、庭などで使われています。



豊橋筆

高級な筆の8割を生産しています。筆は動物の毛が材料となりますが、昔は近くの山にタヌキやイタチがたくさんいて、竹もたくさんとれたので、さかんになりました。

○このほかにも、名古屋友禅、名古屋黒紋付染、常滑焼、瀬戸染付焼、名古屋仏壇、三河仏壇、名古屋桐箆筒、尾張七宝などの伝統的工芸品があります。

